スルナリ果ノ政府ニ於テ編纂セラル、ヲナラハ完全ナル用量書ヲ得ルヲ期シテ待ツヘキナリ

若シ又政府ニ於テ編纂スルヲ採行セラルハ中央獸醫會ニ於テ編纂委員ヲ撰定シ中央獸醫會ノ費用ヲ以之ヲ決行センヲ欲ス其委員撰定費金支出及材料蒐集ノ方法等ハ聊カ意見ナキニ非スト雖今爰ニ陳述スルノ必要ヲ見ス唯以上二按ヲ提出シテ會員諸君ノ同意ヲ仰カント欲スルノミ

實 驗

○北海道ノ家禽虎列刺

J. R. Janson.

津 野 慶 太 郎 譯 述

札幌ノ麥酒釀造家ニ飼養セル家鴨及吐綬鶏ニ一種ノ惡疫ヲ發シ僅々一週間ニ六十餘羽ヲ斃セリ其病性甚ク急劇ニシテ發病后概テ廿四時間ヲ出テシステ斃ル病鳥ハ沈鬱シ兩翼ヲ低レ羽毛光澤ヲ失ヒ食慾絶止シ羸瘦尪弱行歩スル能ハス沈衰シテ死ス然レモ毫モ下利ノ徵候ヲ發セス

屍體ヲ剖檢スルニ最モ顯著ノ變狀ハ腸ニ在リトス乃チ腸粘膜ハ赤色ヲ呈シ皺襞頭殊ニ紅變セリ嚙囊及胃内ニ食物充滿ス以テ病性ノ急劇ナルヲ證スルニ足ル直腸内ニハ宿糞堆積スルヲ見ル是レ生前下利ナキノ徵タリ其他脾、肝及心臟變常セリ脾ハ肥大シ肝亦然リ且帶褐灰白色ヲ呈シ其質脆軟破碎シ易ク心臟ノ實質ハ帶灰白赤色ヲ有シ橫斷面上ニ溷濁ヲ呈ス心内膜及心外膜下ニ溢血斑アリ心臟麻痺及肺臟浮腫ノ徵候アルヲ認ム血液ハ通常ヨリ較々暗赤色ヲ帶ブ然レモ凝固完全

ニシテ心房及心室内ニハ血塊充實シタリ又口腔及鼻孔ヨリ粘液漏出ス但シ生前ニ於テハ此症候ヲ見ス

本症ノ經過右ノ如ク急劇ヲ極メ且主要ノ徵候タル下利ヲ見サルニ因リ當初病性不明コシテ恐ラクハ一種ノ中毒症ナラント假想シタリキ現ニ該家禽園ノ管理者タル日本人某ハ本病ハ油揚(豆麴製造ノ發酵物タル)ヲ給與シタルニ由ルト主張セリ然ルニ之レト同一ノ病症北海道ノ他地方ニ於テモ流行スルノ報告ニ接シタルト適當ノ注意ヲ加ヘテ死鳥ノ血液ヨリ製シタル蓋覆硝子「プレパラート」ヲ携ヘ歸リ駒場農林學校獸醫學部黴菌検査場ニ於テ顯微鏡下ニ検査シタル結果トニ由リ本症ハ家禽虎列刺病ニシテバストール氏ノ所謂 Cholera des poules (鶏虎列刺病獨逸ニ於テ稱スル Gefuegel cholera (家禽虎列刺) 又 Gefuegel typhoid (家禽室扶斯)タルヲ斷定シタリ)

本病原ハ一種ノ微生物ニシテ體內ノ諸器官殊ニ血液中ニ存在スル短小ノ桿狀黴ナリ其兩端ハ圓形ヲ有シ「アニリン」色素ヲ以テ染ムレハ兩極克ク着色スルモ中央部ハ否ラス故ニ宛モ「ザプロコッカス」(譯者註「ザプロコッカス」珠狀微相)ノ如キ觀ヲ呈ス

本病ハ恐ルヘキ傳染病ナリ之レカ制遏ノ最良法ハ速ニ健鳥ヲ病禽ト隔離シ充分周到ノ消毒法ヲ行フニ在リ療法及預防ノ目的ニハ硫酸鐵ヲ用ヅ可シ乃チ本品ノ百倍水溶液(一%)ヲ製シ毎日三回一茶匙宛内服セシム其他禽舍ヲ清潔ニシ換氣ヲ良クシ美食ヲ與ヘ清水ヲ給シ時々之ニ硫酸鐵水ヲ滴加スルヲ良トス

バストール氏ハ鷄虎列刺病黴ヲ培養シテ其毒性ヲ輕減シ預防ノ爲メ健鳥ニ人工種接ヲ行フコト宛モ炭疽病毒ニ於ケルカ如クシ克ク本病ヲ防クニ足ルコトヲ發見シタリト曰フ然レモ該種接法ノ果シテ實際

上有効ナリヤ否ヤハ方今未タ確實ナラス

○實扶的里性腫脹療法

〔ドクトル〕

與 倉 東 隆

予ハ東京家畜病院ニ於テ鶏ノ實扶的里症ニ罹リ顔面腫脹シ眼瞼閉鎖
スルモノヲ療スルニ外科術ヲ施シ概テ良効ヲ收メタリ其法患部ヲ消
毒シ銳披鉞ヲ執リ腫脹部ヲ割破シ含有物ヲ排除シ術后石炭酸水若ク
ハ〔クレオリン〕水ヲ以テ創所ヲ洗滌シ然ル后硝酸銀ノ燒烙ヲ施シ綿花
ニ〔クレオリン〕水ヲ浸シテ空竇内ニ挿入シ日々新陳交迭セシムルニ在リ

雜 錄

○沃度吻ノ新代用藥

實驗

實扶的里性腫脹療法 沃度吻ノ新代用藥

二百二十五